

課題「人のために生きることによって心は強くなるのか」

飯村 誠一

人の心は元もと弱いものです。人間は太古の昔から弱い存在でした。弱い存在、弱い心のおかげで必死に工夫して身を守り、人間はここまで連綿と生き続けてこられたのかもしれませんが。そのことから私は、人の心は強くできないものであろうと考えています。しかしながら、唯一、人の心を強くすることができるものがあるとすれば、それは、「人のために生きる」ことでしょう。今日は、様々な人の生き方や言葉から「人のために生きることによって心は強くなるのか」という課題について、明らかにしていきたいと考えています。

はじめに、「ビリギャル」こと小林さやかさんは、高校時代、テストではよく学年最下位だったそうです。2年生の時に出会って塾の先生が、他の否定的な大人とは違い、全てを肯定し、2時間話を聞いてくれました。それがきっかけとなり、「今までの狭い世界から、世界を広げたい」との思いから、1年半、1日15時間必死の努力で勉強を続けました。その結果、たくさん応援してくれる人が現れて、人の一生懸命な姿は、まわりを変えることができるんだと感じたそうです。

小林さんは、次のようにも語っています。

受験勉強を通して「自分の意志」がどれだけ大切かを知りました。また、「人って自分のためだけには頑張れない」ことにも気が付きました。私は、高校3年生の夏にスランプに陥った時に、母が大変な思いでかき集めてくれた塾代の封筒の重みを忘れません。応援してくれる人の存在が、つらい時に、もう一度立ち上がる力、心の強さを与えてくれるんです。

社会に出たら偏差値なんて役に立たない。でもいろいろなことを経験している人は、誰かを勇気づけられるし、自分の世界の広げ方を知っている。必死で何かを頑張ることを知っている人は、何にでも挑戦できると思います。

人類学者・外科医、武蔵野美術大学教授の関野 吉晴さんは、アマゾンの奥地をはじめ、世界中を旅するグレートジャーニーの探検家としても有名です。関野さんは、未開の地を旅する中で、様々な人との出会いがありました。なかには、けがや病気をしても、ほとんど医療を受けることができない地域も多かったようです。そのような場では、関野さんは、探検家というよりも、医師として、現地の人々のけがや病気の治療にあたることもありました。

世界中を、特に未開の地を旅するということは、並大抵のことではありません。強靱な体と強い精神力が必要です。その心の強さを生み出す原動力の一つは、世界の果てや秘境でけがや病気で困っている人に対し、医療を通して役に立つことができるという思いだったのです。

アメリカ大リーグのイチロー選手は、数々の前人未踏の大記録を打ち立ててきました。さぞかし精神的に強い人であろうと思っていましたが、さにあらず大記録を達成する前は、プレッシャーに押しつぶされそうになり、胃を痛めることも多かったそうです。世界一ともいえるイチロー選手でさえ、プレッシャーと戦い続けてきたのですから、普通の人々がプレッシャーに負けたとしても、なんら恥ずべきことではないのです。

大リーグシーズン最多安打、10年連続200本安打、通算3000本安打等、それぞれの節目でイチロー選手が感じたプレッシャーを乗り越えることができたのは、自分の記録達成を楽しみに球場に足を運んでくださるファンのために打とうという気持ちでした。「応援してくださるファンのために」という思いがあったからこそ、大きなプレッシャーを乗り越える強い心を生み出すことができたのです。

最後に、京都大学 iPS 細胞研究所所長・教授、2012年ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中 伸弥さんは、学生時代、柔道やラグビーで10回以上骨

折するなど、けがが多かったことから整形外科医をめざしました。しかし、他の医師と比べて技術面で不器用だったことから、「この仕事は自分には向いていない」と思うようになりました。やがて、難病や重症患者を救う手立てを研究するために、研究者を志すようになりました。

研究を始めると、日本ではアメリカと異なり、実験用マウスの管理担当者がおらず、マウスの管理に忙殺されるなど、研究環境の落差に悪戦苦闘の日々でした。また、当時は iPS 細胞の有用性が医学研究の世界において重視されておらず、すぐに役立つ薬の研究をしなかったため、周囲の理解を得られずに批判される日々が続いたそうです。そのため、うつ病状態になってしまいました。しかし、「難病や重症患者を救いたい」という思いが研究を続けさせ、その後の iPS 細胞の研究に繋がったということです。

さらに、山中さんは、趣味のマラソンを生かし、不足している iPS 細胞研究基金への寄付募集のため、チャリティーマラソンを企画してきました。その企画の一つ、京都マラソン大会に出場し、1000 万円以上の寄付が集まったとされています。ちなみに、2018 年の別府大分毎日マラソン大会では 3 時間 25 分 20 秒の記録を出しています。

難病や重症患者を救うためにという思いが、山中さんに数々の知恵と、困難を乗り越えさせるための強い心を与えたのです。

このように、人の心は弱いものですが、「人のために生きる、頑張ろうとする思いがあれば」人は心を強くすることができるのです。